

「祝60周年 発足当時を訪ね 新たな一歩を」

玉穂会会長 渡邊 義實



玉穂会が発足し、令和8年で60周年を迎えました。記念すべき年を迎えることができましたことを皆様と共に大いに慶びたいと思います。

玉穂会がどのような経緯でいつ発足し、どんな営みを積み重ねて今日を迎えているかを確認し、70周年へ向けた新たな営みを積み重ねたいものと思います。

発足当時の様子やその後の取り組みは、平成18年5月27日に発行された玉穂40周年記念誌にまとめられていました。改めて確認したいと思います。

発足まで： 当時の校長会と退職校長の代表とで協議を重ね、原案を作成した。

会のねらい： 退職してしまうと格別することもなく、退屈にたえてゆかねばならない生活になる。何とかして退職した校長先生方が集まって懇談する会をつくり研修旅行をすることも良いのではないか。（原文のまま）

誕生したのは： 昭和41年10月17日に行われた彰徳祭（現在の玉川先賢彰徳行事）で提案され、皆様の賛同により誕生した。（1966年のことです）

玉穂会誕生当時を喜ぶ声： 秋田県にたった一つのどこよりも先がけて生まれた会、これから毎年続けられてゆく懇親会、やがて退職する現役校長の楽しみにもなる懇親会、それは孤独をいやす点火でさえあると、誰もがそう思った感激の総会であった。（高橋徳之助先生の回顧）

玉穂会継続の基本： 会が誕生して以来、先達の意思にそってあくまでも会員の親睦を図ることを主として進めてきた。総会のあとの懇親会、研修旅行あるいは旧市町村を巡る研修親睦旅行などの懇親会も重要な事業として位置づけられてきた。

玉穂会40周年当時の会長斎藤充雄先生が、記念誌の巻頭に以上のことを柱にした玉稿を寄せておられた。60周年を機会に、玉穂40周年記念誌を基に発足当時の様子を正確に理解することができ

ました。（県内で最も早く結成されたことを漠然と理解していたが）

さて、令和7年度玉穂会の取り組みは、年2回発行の会報でその詳細をお伝えしました。会報のどの紙面にも会員の喜びがあふれていて、嬉しいことです。久しぶりにお会いしお話をしていると現役時代の楽しかった頃にタイムスリップしたような思いをもつことができます。今年度も会員の交流が密になった1年でありました。会則に沿いながら、会員が求めておられることに配慮した行事推進であったと思います。ご参加の皆様、そして各事業の企画運営に当たられた皆様ありがとうございました。

県退職校長会理事会では、玉穂会の取り組みについて評価をいただくことがあります。会報に掲載された事業内容を主としたものであります。会員の願いを活かし、経費を節減しながら業務を推進する手立てについても、参考にしてみたいという声をいただきます。各郡市の特色ある営みも参考に、さらに充実した営みを展開したいと考えています。

会員の学校教育との主な関わりを紹介します。その基本は、営みへのお手伝いであります。子どもの安全安心を確保するための見守りやあいさつ運動には、多くの会員が関わっています。また、外部講師として教科のねらいに沿った専門の知識や技能などを提供しています。スキーシーズンには、スキー教室の指導者として、多くの会員がお手伝いをしています。スキー教室へのお手伝いをという願いは、高まる傾向にあるようです。

玉穂会発足から60年、時代が変わっても、退職後の時間を有意義に過ごしたいという基本的な願いは変わりません。時代に合った願いをきちんと受け止め、有意義な時間を提供できる組織の一つとして、役割を果たしていきたいと思っています。



第85回自由美術展（2024）

悠

F100号

渡邊義實

祝 令和7年度 叙勲

瑞宝双光章

安部 哲男 先生 「皆様に感謝」

令和7年5月12日 受章



令和7年5月、春の叙勲伝達式がホテルニューオータニで開催され、文部科学大臣より受章し、皇居にて天皇陛下よりお言葉を頂くことが出来ました。身に余る光栄であり、ありがたく参列させて頂きました。教職時代のすばらしい先輩、同僚、後輩の皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。
残された人生は、少しでも世のため人のために尽くす所存です。

<勤務校>
太田町立太田南小学校
田沢湖町立生保内
小学校

加藤 尚 先生 「感謝」

令和7年9月1日付け 受章



今回の受賞に際しましては、様々な方々の励ましや後押しを受け、感謝申し上げます。在職中にはたくさんの先輩たちに育てていただきました。また、周囲のたくさんの同僚に助けられました。そして温かい後輩に支えてもらいました。出会ったたくさんの人たちとの「つながり」に感謝いたします。今後もこのご縁を大切に、どうぞ宜しくお願いいたします。

<勤務校>
協和町立峰吉川小学校
西仙北町立刈和野
小学校

高橋 悦央 先生 「まさかの勲章と勲記」

令和7年11月1日付け 受章



米寿祝いも済み、平凡な日常を楽しんでいる中、高齢者叙勲の内報を受けました。人生に上り下り坂は常在、まさかの叙勲坂の残存に驚いています。
いま、まさかの坂を上りながら35年間の教職生活でお世話になった諸先輩・同僚・後輩・教え子・保護者・地域のみな様に感謝しております。
高齢者叙勲は「長寿」が必須。丈夫な躰を授けてくれた両親と長い伴奏役の妻にも感謝しています。

<勤務校>
西仙北町立土川中学校
神岡町立神宮寺小学校
六郷町立六郷小学校

令和7年度新会員近況



加藤 雅人

役職定年の年、勤務校に教育実習生が来ました。逆風ばかりが吹く今の教育界で、教師を志して、ひたむきに努力する姿に、感動を覚えていた頃、初任研担当のお話をいただきました。今年度は、若い人たちから刺激を受け、共に、一から教育を学ぶ楽しい日々を過ごしております。
若い教員は、私が初任の頃よりも、百倍教材研究を欠かしません。子どもたちにも真摯に接し、本心に立派だと感心させられます。その反面、経験の少なから難しい保護者対応に苦慮し、心痛めることもあります。志高い若者が、夢をもって仕事ができる教育界であることを願って止みません。



西鳥羽 裕

4月より仙北市教育委員会で、総合学習アドバイザーとして勤務しています。玉穂会の先輩方にご指導を仰ぎ、かつての教え子と机を並べて

働く毎日に、教育の仕事が紡ぐ不思議な縁と滋味深い喜びを感じております。

以前より通勤距離が伸びましたが、晴天時は心機一転、3年前に免許取得したバイクでの通勤を始めました。農道ライダーを卒業し、交通量の多い道路を走る心地よい緊張感の中、ヘルメット越しに受ける風や移り行く景色が五感に響きます。

今後も着実な歩みを大切にしながら、未知の領域にも足を踏み出し、彩りのある毎日が迎えられるように心がけたいと思います。



島田 智

役職定年後、同期の多くが学校関係の仕事が続ける中、私は別の角度から学校と関わっている。ESD/SDGs関係団体の理事やコーディネーターを務めながら、38年間の教員生活では出来なかった体験もした。その一つに大学での講義がある。目白大学では、教員養成課程の学生を対象に、教育課程論「カリキュラムマネジメントとESD」の講義を、奈良教育大学では、ESD・ESDGs連続オンラインセミナーの最終回で「ホールスクールアプローチで取り組むESD/SDGs」の講義を担当した。札幌、気仙沼、仙台、筑波、東京、名古屋、奈良、松山等にも出かけ、ライフワークとしてのESD/SDGsを続けている。



木村 光紀

役職定年となり、翌年から西明寺中勤務の生活が始まりました。分掌は3年部主任。中でもWEB出願開始初年度ということで、やりがいのある分掌をいただき、奮闘の1年となりました。

導入初年度のWEB出願に関しては、どうにかこうにか出願を終えましたが、WEB上でのやり取りは便利ではあるものの、なんだか実感の湧かない出願となりました。合格発表も同様です。WEB上での発表になり、高校前で受検番号が張り出されることもなく、歓声が上がると合格発表ならではの風景もなくなりました…。時代の移り変わりを感じる味気ない受検!?!となりました。



渋谷 聡

令和7年度は短時間勤務で、平日の午後と休日に自由な時間ができた。それまでしなかった家のことや、家族との時間、父母との時間にエネルギーを向けた。中でも高齢の父とスキーに行けたのは嬉しい。私が小1の頃、父は毎週田沢湖高原に連れて行ってくれた。スキーは素人ではあったが、子育ての一環で自分も基本から学ぶ気持ちで高学年まで続いた。時は流れ、ここ数年は私の次男と「祖父と孫」で継続していた。今年も私も入り、親子三代でスキー。父の念願の安比高原にも行くことができた。健康づくりと親孝行を兼ねて続けていきたい。次はどこに行こうか。



米澤 孝子

中学校国語教諭として、生徒とともに授業に臨んで、まもなく1年が経とうとしています。昔なじみの教材に胸を躍らせ、新しい教材に四苦八苦しながらも、まずは自分が楽しく読むところから。そうして目の前の子供たちの顔を思い浮かべつつ、ここでは何をどうやって学ぼうかと考えていく。昔々手応えがあった指導法もその時のままでうまくないことがありました。「アップデートが必要ってこういうことか……」と思い知らされます。とはいえ、令和の新時代に、日々のアップデートを楽しめる自分でありたいと思う今日このごろです。



栗林 靖雄

定年延長の制度が始まり、やってみたいこともあったので、15年ぶりに学級担任をしています。子どもたちの違い、新しい指導方法等、不安なところもありましたが、平成の頃のノウハウがどれだけ通用するのかをひとつの楽しみとしながら、もうすぐ1年が経過しようとしています。若い頃と違って無理が利くわけはありません。休むところは休み、頼るところは頼り、一人で頑張りすぎないようにしたことがよかったのか、何とか1年を過ごすことができました。今年の反省点を生かしつつ、あと1年頑張ります。



築地 高

「『できること』が増えるより『楽しめること』が増えるのがいい人生」という言葉がある。退職してから「楽しめること」が格段に増えた。旅、山、キャンプ。車中泊も取り入れて方々へ。朝のコーヒータイム、家庭菜園、スパイスカレー作り等も心安らぐ貴重な時間。今のところは「いい人生」と言えそうだ。…とは言え、「できること」も多少は増やしたい。4月からスクールソーシャルワーカーを務めており、関係機関と連携して問題を抱える子どもらの課題解決に当たっている。学校にとってコーディネーター的存在として組織的対応をバックアップできるよう、社会福祉などの新たな知見を深めたいと思う今日この頃である。



高橋 規子

昨年度末に役職定年となり、現在教諭に戻って小学校と中学校で英語を教えています。デジタル教科書やICT教材を使わなければならないため、若い先生方や児童生徒たちから教わることも多く、ボケていられない環境にあることがとてもありがたいです。昨今は様々な働き方をしている人たちがいて、先輩や同年代の方々が周りにたくさんいることもありがたいことのひとつ。儀式や集会の時には、「ゆっくり純粋に楽しめるのってええな〜。」と言い合い、リラックスして参加させてもらっています。老害と言われぬよう、出来れば人様のお役に立てるよう、もう少しの間頑張りたいです。



畠山 仁

役職定年を機にスーパーカブを買った。バイクは学生以来なので40年ぶりである。当時との一番の違いはバランス感覚の衰え(涙)で、特に右折時などふらつかないように細心の注意が必要になってしまった。当初バイクを買ったことは秘密にしていたが、いつの間にか近所に知られることとなった。そして私のようなリターンライダーが他にもおり、ツーリングの会に誘っていただいたことは大変幸運であった。去年は竜飛岬まで走ってきたが、この仲間と東北の道の駅全てに行くことが目標である。新車で30万円のカブだが大きな満足感が得られ、買ってよかったと心から思っている。



高階 勝巳

62歳の定年まで働くことを選択し、現在は大曲南中学校に勤務しています。2回目の勤務ですが、以前と変わっているところもあり、懐かしさの中にも時間の経過を感じています。全学年の授業を担当しており、教材研究や授業準備に多くの時間が費やされます。もっと余裕をもって業務にあたることができればよいのですが、一日一日を終えることで精一杯という状況が、毎日のように続いています。多忙な毎日ですが、子どもたちとの何気ない会話や授業などでの関わりの中に楽しさを感じながら、もう1年過ごすのもよいかなと思っています。

随 想

お疲れ様です。
よろしくお願ひします。

高山 泰文

現役時代は玉川先賢彰徳行事に毎年参加し、懇談会で諸先輩からアドバイスを頂いたり、仲間と議論したり、愚痴をこぼし合ったりしながら有意義かつ楽しい時間を過ごしたものでした。ところが定年（私は60歳）後12年間は一度も参加できておりません。理由は私の「第二の人生（寺院住職就任）」にあります。彰徳行事が行われる時期は寺が一年で最も忙しいお盆前にあたり、諸準備のためどうしても出席が叶いません。彰徳行事の他にも魅力的な活動や同好会などありますが、私のカレンダーに空白の日があまりなく、これらへの参加もまた難しい状況です。年回忌等の仏事をお勤めが休みの日を希望される檀家様も多いため、休日は真っ先に埋まります。24時間対応・年中無休・更に建物と境内地の管理・事務作業等が全てワンオペ体制と、今の職業はかなり「ブラック」と言えます。

そんな毎日を送っている私ですがテレビ・ラジオ・インターネット等々で教育関係のニュースや情報が流れればやはり気になってチェックしています。最近は「エ？そんなことがあるの？」や「そこまで酷いことになってるの？」と思う案件が増えているように感じます。それらに接する度に現場の先生方・校長先生方はさぞご苦労されているだろうと拝察し心配になります。引退して12年。今となっては体力的にも時間的にも直接何かお手伝いできる余裕はありませんが、学校を・先生方を・校長先生を心から応援しております。次代を担う心身共に健康な児童生徒の育成を何卒よろしくお願ひいたします。

山に行く

谷口 泉子

「会いたい人に会う、行きたいところへ行く、やりたいことをやる」という生活を始めて6年を過ごしました。オールサンデーの日々は、ステンドグラス、大相撲や大谷のTV観戦、旅行、山歩きなどの気ままな生活です。

そして現在、やりたいことの大半を占めているの



が山。退職後に地元の山の会に入れてもらってからのめり込んでいます。昨夏は、かねてより憧れていた北アルプス穂高岳に登ることができました。行程は、一日目：六郷出発～上高地～徳沢。二日目：徳沢～涸沢～穂高岳山荘。三日目：山荘～奥穂高岳(3190M北アルプスの最高峰)～吊尾根～前穂高岳(3090M)～重太郎新道～岳沢小屋。四日目：小屋～上高地～六郷帰着。油断を許さない険しい岩稜続きのコースをよくも歩き通せたものです。山のベテランたちに支えられ厳しくも感動いっぱい夢のような四日間でした。

山の会の今夏の山行予定は北アルプス白馬岳。今から低山歩きを重ねて、身体の準備も整えて行きたいと思っています。

チーム四ツ屋の一員として

金子 徹章

四ツ屋公民館の館長として1年になりました。自宅から公民館までは徒歩で160歩。前に勤めていた四ツ屋小学校までの364歩から204歩も近くなりました。

公民館に勤め、地域力の高さを改めて実感した1年でした。四ツ屋には、地域コミュニティ会議やスポーツ振興会をはじめとして、多くの任意団体があります。コミュニティ会議では、「水辺の楽校祭」「四ツ屋まつり」など。スポーツ振興会では、「運動会」「軟式野球大会」「バレーボール大会」など。社会福祉協議会では、「敬老事業」「高齢者ふれあいサロン」などをおこなっています。



公民館は、ほとんどの団体の事務局を請負っていますが、行事の実施に当たっては、それぞれの団体の役員が積極的に動きます。

コミュニティ会議主催の「四ツ屋まつり」では、生憎の雨に見舞われましたが、役員が臨機応変に動き、各地区からテントを集めて、客席を覆うことで無事に実施することが出来ました。四ツ屋が、益々好きになっていきます。こんな四ツ屋の交流の要となる事が出来るように、チーム四ツ屋の一員として頑張っています。

まねぶ・学ぶ

高野 一志

昨年5月、二階の和室を洋室にしようと思い立ち、道具を借りて挑戦することにした。何とか一人で完成させてみたかったのである。作業は簡単に思えたが、実際は作業に入る前に沢山の疑問が生まれた。「畳を取り払い、床材に置き換える時、畳が敷かれていた床の高さから床材が張り替えられた時の高さを同じにし、か

つ水平にするには？」「その高さ(厚さ)の微調整方法は？」「床材の継ぎ方は？」「平行を出しながら床材を敷き込むには？」「部屋の隅の細かな凸凹に合わせるには？」「最後の一枚を敷き込むには？」悩みながらもなんとかだろうと資材調達にホームセンターに向かうとDIYアドバイザーがいた。彼は元々は大工の棟梁で休日に出ているとのこと。仲良くなり早速その師に教えを請う。簡潔な答えが返ってきてその度に課題が解決されていく。経験に裏打ちされた技術は、現場にいたなくても適切な助言となることに驚く。完成した部屋の写真を再会したホームセンターの彼に見せたのは完成後半年たった昨年12月だった。「ほう、いいな。」最高の褒め言葉になんともいえない達成感で自分のほおが緩んだ。



神事は女子生徒2名による「豊栄舞」から始まりました。巫女舞の厳かで華やかな雰囲気醸し出された後、肅々と神事が執り行われました。最後に栗谷川校長会長から、先人の徳行を称え、この行事を大切にしていきたいとの挨拶がありました。

懇談会は、和やかに言葉を交わし、あれよあれよという間に時が過ぎていきました。「わかば」の斉唱、そして、玉穂会員による「今ふるさと」の斉唱は、そのムードに一層華を添えました。

なお、今年度彰徳碑の修繕を行いましたのでご承知おきください。また、周辺環境整備は、今年度も神代小、中学校の技術員さんに御手数をおかけしております。

素晴らしい行事となりました。玉穂会員の皆様に感謝申し上げます。



研修親睦旅行

記録者 金子 俊隆

令和7年度は、角館地区で担当しました。旅行行程は、雲巖寺・白岩焼和兵衛・古城山・武家屋敷河原田家の見学でした。

最初に見学した雲巖寺伽藍は、どっしりと落ち着いた様子で、その中には座禅堂を備えるなど、仏教に興味のある方にお勧めのお寺でした。

次に伺った白岩焼和兵衛窯は、一度途絶えたものを渡邊家が再興し現代に至っています。

武家屋敷河原田家は、17代当主次朗氏が、直々に案内してくれました。部屋夫々に活用の目的があり、整然と統括されている様子が窺えました。

古城山は、院内川をはさんだ本見町から見上げる位置にあり、角館という地名は、そこから見上げた古城山の様子を表していることを説明しました。カクノダテは「上の辺りは崖になっている川の曲がり部分にある山」という意味をもっています。なぜそれが地名として残ったかといいますが、古城山は、山の神様が降臨する所であったからです。

現在岩瀬にある神明社は、角館町が芦名氏により現在の地に移される前は、この山にありました。



俳句 秀逸文芸

元朝や新聞重く幸満ちて 武田 覺
 初鏡老父私を睨みおり

川柳 柴田 政幸
 友来訪過去のドラマの幕が開く

短歌 藤田 直樹
 さみしさに風が吹きます
 一瞬の時はのがさず問いかけて来て

欲張らず多くを望むことをやめ
 身軽になりてこの日を生きる
(第三歌集「ギルランデ数多」)

(第二歌集「Geometry」)

玉川先賢彰徳行事

大曲仙北校長会対策部長 佐藤 公則

9月6日(土)、あきた芸術村「温泉ゆぽぽ」にて、玉川先賢彰徳行事が行われました。ご遺族の田口様、神官の太田様、仙北市教育次長齊藤丈彦様をご来賓としてお迎えし、玉穂会員23名、校長会員41名の参加により、神事と懇談会を厳粛かつ盛大に開催できました。

グラウンドゴルフ同好会

(担当 坂本 晋平)

第76回大会開催時にラベンダーの見頃はまだまだですが、気候的には最適でした。参加者が14名で初参加者も2名増え、担当としてはうれしい大会となりました。田口和典氏がホールインワンを2度出す善戦にもかかわらず、往年のグラウンドゴルファーが1位から3位を占めました。

第77回大会は天気にも恵まれ秋晴れのなか、ラウンドすることができました。常勝の高橋滋氏がぶっちぎりで優勝を収め、初参加の木村光紀氏が好スコアを連発し、またブービー賞をめぐり3名が同打数で並ぶ展開となりました。

玉穂会グラウンドゴルフ大会は毎年2回、6月第2土曜日と9月第4土曜日の開催を予定しています。参加費は千円と格安で、賞品も各種取り揃えています。お気軽に参加してください。

第76回玉穂会グラウンドゴルフ大会

期 日 令和7年6月14日(土)

場 所 美郷町大野台広場

参加者 14名

成 績 (全コース:32ホール)

1位	渡邊 義實	93打	HI
2位	田中 勝利	94打	
3位	鈴木 儁	95打	
4位	坂本 晋平	100打	HI
5位	加藤 功	100打	
ブービー賞	佐々木純一		

第77回玉穂会グラウンドゴルフ大会

期 日 令和7年9月27日(土)

場 所 大曲の花火公園多目的広場

参加者 9名

成 績 (全コース:32ホール)

1位	高橋 滋	78打	H2
2位	木村 光紀	85打	
3位	田中 勝利	90打	HI
4位	坂本 晋平	95打	HI
5位	渡邊 義實	97打	
ブービー賞	山崎 敏		



麻雀同好会

(担当 竹村 尚人)

第7回 M カップは参加者が少なく2卓での開催

となりました。結果は、最終戦までマイナス続きの最下位だった熊谷氏が、なんと!土壇場で親の役満(国士無双48000点)をツモリ、大逆転優勝を果しました。

第8回 M カップはどうか3卓での開催となり、序盤から得点を重ねた竹村による史上初の10万点越えでのダントツ優勝となりました。

今年度は目標の4卓(16人)は実現できませんでしたが、次回からは目標達成とともに、これまで以上にわいわい楽しくやりたいと思っています。

新会員の募集も含め、皆さんの参加を大いに期待しています。

第7回 M カップ (R7.7.5)

優 勝	熊谷 徹
準優勝	鈴木 儁
第3位	金子 徹章

<他参加者5名>

第8回 M カップ (R7.11.8)

優 勝	竹村 尚人
準優勝	渡邊 義實
第3位	高橋 宗生

<他参加者10名>



郷土カルチャー同好会

(担当 鈴木 恒久)

『鳥海・象潟ぶらり旅』(9/20)

○探訪先I 『獅子ヶ鼻湿原』《秋田の奥入瀬》

お目当ての異形ブナ林までは片道40分。濡れた山道入り口には『熊出没中・注意』の看板。あっさりトレッキングは断念し、別方向に歩いて僅か2分。そこには異形ブナ林が広がり、鳥海山の伏流水も勢いよく流れる別世界。奥入瀬に勝るとも劣らない自然美に息を飲んだ。



- 探訪先Ⅱ 『元滝伏流水』《岩肌からの湧水群》
幅30mの岩肌から湧き出た水が落差5mの滝となり、圧倒的な水量と神秘的な絶景に皆大感動。見たことのない方は必見!よろしく!
- 探訪先Ⅲ 『奈曽の白滝』《これぞ滝見!》
吊り橋を進むにつれ瀑声も心地よさを増し、高さ26mの白く美しい滝見を愉しんだ。
- 探訪先Ⅳ 『TDK歴史未来館』《今昔と未来》
TDKの製品や技術の進化と未来の世界を無料で見学・体験。スタッフの笑顔と気配りもさすがは世界のTDK。ランチも人気があり、見学&ランチを愉しむのもお勧めとのこと。

ゴルフ同好会

(担当 千葉 雅一)
ゴルフ同好会では、今年度も「玉穂会ゴルフコンペ(G-Cup)」を2回開催しました。第15回は少々曇り空の6月2日(月)20名の参加、そして第16回は秋晴れの10月6日(月)19名の参加にて盛大に行われました。
参加メンバーの年齢や技量はそれぞれですが、とにかく「楽しく、仲良く、健康でず〜っと長く」をモットーにしている本同好会ですので、ナイスショットはもちろんですが、随所で見られた迷(?)プレー、珍(?)プレーにも大いに盛り上がるコンペとなりました。
今年度の結果は次の通りです。

<第15回コンペ>6月2日(月)

優勝	柴田 衛	NET 67.4
準優勝	加藤勝則	NET 70.2
第3位	小原 靖	NET 70.6
ベストグロス	77	柴田 衛

<第16回コンペ>10月6日(月)

優勝	松田 篤	NET 69.6
準優勝	小原 靖	NET 72.0
第3位	武田 覚	NET 72.8
ベストグロス	80	柴田 衛

入賞されました皆様、おめでとうございます!!
今年度は新しい試みとして、第16回コンペの後に懇親会も開催(大原旅館)され、プレーヤー20名中17名の参加をいただき、大いにゴルフ談義に花が咲きました。
今から雪解けが待ち遠しいですね。(1月下旬記載)



スキー同好会

(担当 高橋 正規)
今年度も4回の滑ろう会を行い、会員相互の親睦を図りながらスキーを存分に楽しみました。

- 第8回滑ろう会:令和8年1月18日(日)
「たざわ湖スキー場を満喫!」 参加者:10名
- 第9回滑ろう会:令和8年2月12日(木)
「大台でちょこっと滑ろう!」 参加者:5名
- 第10回滑ろう会:令和8年2月23日(月)
「岩手高原スノーパークで滑ろう!」参加者:4名
- 第11回滑ろう会:令和8年3月20日(金)
「3月もやっぱりたざわ湖満喫!」参加者:3名

青空の下でとはいきませんでした。いずれのスキー場も雪は十分にあり、ゲレンデの状態は申し分ありませんでした。
たざわ湖スキー場では様々なコースを存分に滑りました。渡邊玉穂会会長さんも昼食時に合流し、スキーと食事、様々な話題で楽しい時間を過ごすことができました。
大台スキー場では午前中2時間の日程で開催。近場で集まりやすく斜面も適度であることから、参加した皆さんからは好評でした。
第10回は、岩手高原スノーパークへ。硬くなった斜面はなかなか手強かったのですが、中斜面のロングコースを何本もクルージングしました。



来年度は大台での開催を増やし、開催曜日やスキー場の選択を工夫して活動を充実させていきたいと思えます。



こころよりご冥福をお祈り申し上げます

会員のご逝去 令和7年4月～令和8年3月

高橋 良昭 様 4月 4日(78歳) 大仙市大曲	橋本健次郎 様 10月 7日(97歳) 仙北市西木町
鈴木 初彦 様 4月17日(92歳) 大仙市大曲	木村 恭己 様 12月19日(78歳) 大仙市川目
林 誠 様 5月 7日(87歳) 大仙市大曲	加藤 雄一 様 2月14日(96歳) 大仙市大曲
関 陽之助 様 7月 3日(84歳) 大仙市大曲	鈴木 勝一 様 2月19日(88歳) 仙北市田沢湖
高橋 孝芳 様 8月26日(82歳) 大仙市大曲	對馬 誠治 様 3月 8日(90歳) 大仙市大曲
	佐々木昭四郎 様 3月22日(96歳) 大仙市花館

こころからお祝い申し上げます

令和7年度 叙勲

安部 哲男 様 春の叙勲 瑞宝双光章 5月12日 仙北市田沢湖
加藤 尚 様 高齢者叙勲 瑞宝双光章 9月 1日付け 大仙市神宮寺
高橋 悦央 様 高齢者叙勲 瑞宝双光章 11月 1日付け 美郷町六郷
鈴木 勝一 様 高齢者叙勲 瑞宝双光章 12月 1日付け 仙北市田沢湖

令和8年度 長寿慶祝者

<氏名 生年月日 居住地>

<米寿> (昭和14年4月2日～昭和15年4月1日)

伊藤 鐵也 様 昭和14年 4月12日生 大仙市 吉成 正規 様 昭和14年 9月19日生 大仙市
伊藤 茂昭 様 昭和14年 9月15日生 大仙市 三浦 幸子 様 昭和15年 3月10日生 大仙市

<喜寿> (昭和25年4月2日～昭和26年4月1日)

武藤 清茂 様 昭和25年 4月20日生 仙北市 豊島 榮子 様 昭和25年 6月29日生 大仙市

歓迎 令和8年度新入会員

<氏名 役職定年校 居住地>

栗谷川 学 様 大曲中 大仙市 菅原 和仁 様 平和中 大仙市
三浦 久佳 様 花館小 大仙市 黒川 修二 様 東大曲小 大仙市
本堂 法順 様 桧木内中 美郷町 石川 真一 様 西仙北中 大仙市
山信田 浩 様 中仙小 大仙市 小松 完 様 中仙中 大仙市
竹村 一郎 様 生保内小 大仙市

<編集後記>

今号も退職後の時間を有意義に過ごしている、多様で豊かで温かい様子はもちろん、役職定年を終えて児童・生徒、若い教員の指導、先進課題、教育行政等々社会に役立つ職務に真摯に取り組んでおられる様子が凝縮された紙面になりました。

今年度は本会創立60周年です。記念すべき年にふさわしい、さらなる充実した活動が期待されます。

また、記念誌の準備も始めました。夏に発刊予定です。乞うご期待。(加藤)

